

平成2年度 若い漁業者育成確保促進事業

新 里 喜 信

漁業者の知識と技術の向上を図り、組織的な学習や活動をとおして相互の緊密な連携と情報交換を行うことにより、漁村の人づくりと活性化を推進するため、国庫補助事業「若い漁業者育成確保促進事業」を実施した。

ここでは、平成2年度の実施状況について報告する。

1. 漁村青少年協議会

この協議会は、漁村青壮年グループの自主的な活動運営を助長するため、グループの代表者を主体に漁業士、市町村及び漁業団体の職員並びに学識経験者をもって構成し、任期は3年となっている。

漁村青少年協議会はグループの意向の集約を行うと共に計画や実施状況について協議した。平成2年度協議会の委員は前年度と同様で、本島地区、宮古地区、八重山地区においてそれぞれ3回ずつ協議会が開催された。

2. 学 習 会

この事業は、地域振興を図るため、地域における未開発の技術又は経営手法の導入にあたって、後継者自らが地域の特定課題又は技術内容を充分理解し得るよう専門家を招き集団学習を行うものである。

今年度は3地区（名護市－7月31日、伊良部町－8月1日、石垣市－8月2日）において東京水産大学助教授加瀬和俊氏を講師に招聘し、「沿岸漁業の担い手と後継者の役割」の演題で講演会を行った。

また、2地域（石垣市－8月28日、沖縄市－10月3日）において、沖縄水産高等学校教諭上田不二夫氏を講師に「リゾート開発と漁業の対応」の演題で講演会を行った。

当日は漁協青年部、研究グループ、漁協役職員、市町村水産担当職員等が参加し、活発な質疑応答と討議が行われた。

3. 都市漁村交流事業

この事業は、都市と漁村の青年の相互理解を深め、また広範な知識の向上を図るため、グループ代表者を県内又は他県の都市の青壮年グループ等に派遣し、交流学习活動を行うものである。

今年度は、10月17日～18日までの2日間、県中央卸売市場、県漁連市場、沖縄調理師専門学校を訪問し、朝市のセリ売りの状況から市場の仕組み、時期による取扱量又は流通経路に至る物流の学習と、魚を素材とした調理法（料理素材としての県産魚の長所、短所等）を学習した。参加

者は、池間漁協から佐久本昌治氏、久米島漁協から田端幹夫氏、石川市漁協から名嘉清文氏、恩納村漁協から島袋一氏、国頭漁協から比嘉行三氏の計5名（いずれも青年漁業士）が参加した。

4. 技術交流事業

この事業は、後継者の漁業及び漁家生活に関する考え方、技術等について地域相互間の交流を行い、技術、知識の向上を図るため、グループ代表者を県内又は他県に派遣し、先進技術等の交流活動を行うものである。

今年度は、平成2年5月24日～26日までの3日間、パヤオ漁業の先進地である伊良部町漁業協同組合でパヤオ周辺の曳縄漁業及び鮮度保持を中心に同漁協青年部と交流学习を深めた。参加者は、沖縄市漁協青壮年部具志堅利夫氏、石川市漁協青壮年部古謝広昭氏、久米島漁協青年部仲道邦夫氏の3名が参加した。

また、平成2年6月19日～21日までの3日間伊平屋漁協において、モズク養殖の生産から加工販売に至る過程について同漁協青年部と交流学习を深めた。参加者は、勝連漁協青年部上原勇行氏、自主参加で同漁協青年部西玉栄氏外5名、それに同漁協職員新屋武勝氏の計8名が参加した。

5. 漁村青壮年婦人活動実績発表大会

この事業は、漁村青壮年及び婦人、研究グループが自主的な活動実績を発表し、相互の知識と技術の交流を図り、活動意欲を高めるとともに地域の生産技術の向上、経営の改善に寄与することを目的に開催した。

今年度は、平成3年1月17日に那覇市内の水産会館において本島、宮古から下記の発表者及び発表課題により開催された。当日は、各漁協及び系統団体、市町村水産担当職員等多数（265名）が参加し盛会であった。なお、審査の結果、「サンゴ礁海域の魚類養殖に取り組んで」と題して発表した羽地漁協大宜味魚介類養殖研究会の屋良朝之さんが県知事賞に輝いた。また、当日は鹿児島県漁連市場部冷凍魚課長坂本文男氏を講師に招いて「魚のマーケティング」と題して講演していただいた。

※ 発表者と発表課題

発表者	発表課題	所属
当真正守	若い漁業者の自立を目指して	恩納村漁協青年部
伊計長照	カツオ、マグロの流通改善について	伊良部町漁協青年部
屋良朝之	サンゴ礁海域の魚類養殖に取り組んで	羽地漁協大宜味魚介類養殖研究会
渡名喜盛二	ソデイカ釣漁業に取り組んで	久米島漁協青壮年部
富名腰美知子	地域の特産品づくりをめざして	与那原町漁協婦人部